

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270600457		
法人名	社会福祉法人 さゆり会		
事業所名	グループホーム 大津		
所在地 (電話番号)	長崎県五島市下大津724番地7 (電話) 0959-75-0356		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成20年3月1日

## 【情報提供票より】(19年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.6 人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 1日 150 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	160 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり	760 円	

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.7 歳	最低 66 歳	最高 89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	虎島医院(内科、皮膚科)、長滝歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

比較的市街地に近い位置に建てられたホームは、地域の町内会にも入っており回覧版を回す等の関係が続けながら、地域の方に野菜を頂いたりという関係作りが出来ている。地域での祭りや行事にも積極的に参加を行っており、ホームにも保育園や青年団によるチョコの訪問を受け入れたり、地域との密接な関係づくりも行っている。また、利用者の思いの把握に努め利用者本位のプラン作りにも積極的に努め、ホーム内での役割を持って頂けるように支援を行っている。職員に対しても資質の向上に向け「能力開発シート」を全員に作成させ、それぞれの経験年数に即した目標の設定を行いながら、職員自らも積極的に取り組みを行っている。また、前回の改善項目によりマニュアル作成委員も作り、すべてのマニュアルの見直し等を行いながら、ホームの向上に向けて積極的に取り組んでいるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>前回の改善課題としての衛生管理や感染症対策については、マニュアル作成委員を作りマニュアル作成を行いそれを基に勉強会の開催を行いながら、全員に周知徹底を行っている。口腔内の清潔についても毎食後のうがいと就寝前に義歯を消毒液につけ消毒を行っている。緊急時の対応については、消防署の普通救命救急講習を全員で数回の回数に分けて受講した。利用者の栄養管理については、同じ法人内の栄養士にカリ-計算をお願いしている。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>今回の自己評価に関しては、まず管理者が記入を行い、それを基に会議を開き、職員に意見や追加等を尋ねながら1つにまとめているが、今回より項目の内容が変わっており、その説明までは行っていない事もあり、項目の理解がしにくかったのか活発な意見までは出てこなかった。評価の意義は全員が理解を行っており、事業所の評価の他、個人の自己評価である能力開発シートの実施も定期的に行っている。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>運営推進会議では利用者・家族をはじめ、市の職員、地域住民代表の民生委員等をメンバーに、施設での年間行事、活動内容や入居者の状態、ヒヤリ・ハットや事故報告、避難訓練状況報告等を議題に上げ2ヶ月に1回開催している。また、外部評価の報告についても会議内で意見を出しているが、なかなか活発な意見までは出てこない状況にある。今後事前に会議のテーマを決めておく事で意見を出し易い状況を作り出し、活発な意見交換の場となるように取り組んで行く予定である。</p>
	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>家族への利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理に関しての報告は、近隣の家族については月1度自宅を訪問を行い説明を行い、家族来訪時や体調の変化が生じた場合にもその都度電話で行っている。遠方の家族に対しては、毎月の請求書と一緒に2ヶ月に1回の広報誌や3ヶ月に1回の介護計画とともに報告を行ったり、電話でも報告を行っている。職員がブログを作成しており、その中でもホームの行事等の写真を掲載し(家族には了承済み)、遠方の家族には特に喜ばれている。苦情についても常にホーム側より働き掛けを行い、家族に気軽に相談等をして頂き易いような雰囲気作りを行っている。</p>
重点項目③	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>地域の町内会に入っており、回覧板の受け渡し等日常的なお付き合いから野菜を頂くまでの関係作りも行っている。また、地域の祭りや市が行っている夕焼けマラソン、アイアンマンの応援にも利用者が出かけたり、お盆の時期には地元の青年団によるチョコがホームを訪れ、先祖を供養する為の地域の踊りを披露してくれたり、地域の保育園による訪問も受け入れており、利用者が地域の方と関わる場面も多い。今後、利用者が地域の中で出来る事を見つけてながら、地域人としての役割を持つ事をホーム側としても考えており、取り組んでいく予定である。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体として、以前の特養の施設長が11か条の運営理念を作り上げ、それを基に「私たちの目標」として3つのポイントを掲げている。また、ホーム独自の理念として、3年程前に職員全員で話し合い利用者の立場に立って考えた理念も掲げている。元々地域を意識して作られたホームの為、理念の中にも「地域に貢献し、家族とともにいます。」や「地域や自然をいかしながらのケア」が入っており、地域の方へも理解して頂けるようホームの広報誌に1か条づつ毎回掲載している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は職員全員で話し合い、作り上げたもので、全職員が理解している。また、日々の申し送りの時や月1回のケース会議の際に、各利用者の状態等を理念の項目に当てはめながら項目の再確認も含め、今後のケア方針を検討しており、日々の実践に繋げている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っており、回覧板の受け渡し等日常的なお付き合いも行う中で、地域の方に野菜等を頂くまでの関係づくりが出来ている。また、地域の祭りや、市が行っている夕焼けマラソンやアイアンマンの応援にも利用者に参加を行っている。お盆の時期には地元の青年団によるチャンココがホームを訪れ、先祖を供養する為の地域の踊りを披露して頂いており、夏の風物詩になっている。また、地域の保育園による訪問も受け入れを行っており、利用者との関わりの場面も積極的に作っている。	○	外部への行事に元気な利用者は積極的に参加をされるが、身体的に腰痛等ある人は行きたがらず、参加者が限られてきている。利用者の身体的苦痛も考慮しながら、少しでも多くの利用者が参加出来る対応策の検討を行って欲しい。また、町内会には加入しているが、地域の一員としての役割としては、主に管理者が寄り合い等に参加しているのみで、利用者は現在特には参加は行っていないが、利用者にも出来る地域での役割を考え、地域の一員として活動に参加していく事をホーム側は願っており、今後に期待していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義を理解し積極的に取り組んでいる。前回の外部評価の改善点に関しても改善策を検討し、改善に向けての取り組みを行っている。今回の自己評価については、まず管理者が記入を行い、それをもとに会議を開き、職員に追加や意見を聞きながらまとめていったが、活発な意見まではなかなか出てこなかった。事業所評価の他、個々の職員の能力向上も視野に置き、個人の自己評価である能力開発シートの実施も行っている。	○	改善点に関しては、今後も職員全員で話し合いを行っていき改善に取り組んでいく予定である。自己評価に関して、今回新項目に変わった事もあるのだから、会議の中で職員の活発な意見がなかなか出てこなかった事もあり、評価項目の意味も含め勉強会等で職員の理解を深め、意識向上に向けての取り組みを行いながら、全員で外部評価等の結果を通じて、ホームの向上に取り組んで行く事に期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者代表や家族をはじめ市の職員、地域住民代表の民生委員をメンバーに、ホームでの年間行事、活動報告や入居者の状態、ヒヤリ・ハットや事故報告、避難訓練状況報告等を議題に上げ、年6回開催している。出席に関しては、日にちの調整は苦勞するが、概ね連絡をすれば出席して頂いており、特に積極的な呼びかけまでは行っていない。前回の外部評価についても会議内で意見を求めるが、活発な意見まではなかなか聞かれるまでには至っていない。	○	会議内での意見がなかなか得られず、現在はホームの活動報告や、ヒヤリ・ハット、事故報告が中心になっている。また、議事録の内容としても項目の掲載のみとなっており、出席以外の人が見ても内容の把握が困難なものとなっている。もっと具体的な会議内の状況の表記を行っていく事で、出席外の家族等にも解り易いものとし、意見を聞ける場面作りを行っていたり、テーマを事前に決めて置くことで意見を出し易い雰囲気作りを行い、運営推進会議が活発な意見交換の場となる事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、運営推進会議での交流が中心で、それ以外での市の職員との関わりはもっていない。今年8月の運営推進会議の際、市との連携について施設として何を行っていかばよいかを相談も行って見たが、まだ返事待ちの状態となっている。	○	市の職員と運営推進会議以外での関わりが、現在はあまりない状態にあり、連携を行う為にホームとして何をすればいいかの相談を、運営推進会議内で行って見たが、まだ返事待ちの状態にある。連携については今後の検討課題だが、まず、運営推進会議内だけでなく、ホーム側より広報誌等の配布や状況報告等で積極的に市へ訪問を行い、顔なじみの関係づくりを行う機会を設ける等、協力体制を築き上げていられる事に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態、金銭管理に関しては、近隣の家族については月1度、自宅へ訪問し説明を行っている。遠方の家族については、請求書と一緒に2ヶ月に1回の広報誌や3ヶ月に1回の介護計画を郵送して報告したり、電話でも報告を行っている。その他体調に変化があった場合はその都度電話にて報告を行っている。また、職員がブログも作成しており、ホームの行事等の写真も掲載されており(家族には了承済み)、特に遠方の家族には喜ばれている。職員の異動に関しては、家族会や訪問時に報告を行っている。家族が特に知りたいと思う情報については、個々に合わせた報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に行政の苦情・相談窓口の説明は行っている。また、第三者による苦情・相談委員も法人として設けている。家族の面会時や、月1回の自宅訪問時、2ヶ月に1回の家族会の時には、常に意識して苦情・相談を気軽に言って頂けるようにホーム側より働きかけを行っている。普段の何気ない日常会話の中から家族の心配事が聞かれる事が多く、記録に残し勤務終了後、次の勤務者へ申し送りにて引き継ぎを行ったり、回覧をして情報の共有を行っている。また検討が必要な項目については話し合いを行い対応策を決定している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内では、介護技術面のレベルアップの為に定期的に異動が行われる事もあるが、その際は十分な引継ぎ期間を設け、利用者に影響がないように配慮を行っている。また、家族にも面会時や広報誌等で報告を行っている。職員の自己退職を最小限にする為の取り組みとして、休みの希望は極力応じており、調理や夜勤の専門の職員を配置する事での負担の軽減も行っている。また、年2回の親睦の為の食事会も設けており、職員間の関係作りも行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の他事業所と合同で2ヶ月に1回程度、事業所単独で2ヶ月に1回程度研修を行っている。また、月1回のケア会議の後にも希望をとり、研修を行っている他、日々の実践の中でも管理者や主任が助言・指導を行っている。全職員に能力開発シートの作成を義務づけており、各自で目標の設定を行い、それに向けての取り組みを記録に残しながら自己評価を行っており、管理者がチェックを行いながら、経験年数等に応じた外部研修への参加を決めており、職員の育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流・連携の必要性を認識しており、市のグループホーム連絡協議会に登録を行っているが、現在まだ連絡がなく、参加までには至っていない。市の他のグループホームの職員研修の受け入れを行っており、お互いの意見交換会は行っている。	○	他のグループホームの職員の研修の受け入れは行っており、意見交換もおこなっているが、こちら側からホームの見学には行わず今後双方での職員研修を行いながら、意見交換の場を多く持って行って欲しい。また、市のグループホーム連絡協議会参加への土台づくりは行っている為、活発に参加を行っていくことでネットワークの輪を広げ、多くの事例検討会を行いながら共に向上していく事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネからの紹介が多くケアマネと同行し自宅を訪問したり、可能であれば本人、家族も見学に来て頂いている。本人が納得をして入居するとすぐに馴染まれるが、納得行かないまま入居した時は、興奮等も見られる場合もあり、本人の意思を1つ1つ確認しながら対応方法を変更している。精神科に措置入院されていた人が独居をするには生命的に危機的な状態がある為、ケアマネより相談を受け緊急入居となった例があるが、最初は不穏状態続いたが本人とじっくり関わる事で、現在は馴染まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の料理やお菓子を作る際には、利用者により作り方や味付け等を教わりながら一緒に料理を行っている。また、昔からのしきたりや行事等の話、畑の野菜づくりや漬物の作り方等を尋ねると楽しそうに話をし下り、積極的に教えて下さる場面作りを行っている。夜勤の際には、利用者により「まだ、起きとったね」「ひどかね(大変ね)」等労いの言葉をかけて頂く事も多く、励まされながら共に支えあう関係作りが出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報や利用者、家族からの聞き取りで思いや意向の把握を行うようにしている。また、いろいろな事を日々職員側から提供しながら表情等を見て、楽しそうにされているかどうか等反応を見ながら把握するように努めている。日々の気付きについて、現在記録にすべて残しているだけではなく、情報の共有が出来ていない事もあり、全員に対し把握を行えているとは言い難い。	○	今後、日々の生活の中での気付きを記録に書きとめ、職員全員で情報の共有を行い、すべての利用者に対しての思いの把握に期待していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや意向を日々の生活の中から聞き取りプランに反映させている。家族に対しても実行表でのプランの説明・報告は行っているが、会議に参加等積極的に意見を言える場面づくりまでは行っておらず、「お任せします」等の言葉が返ってくる事が多い為、意見の反映までには至っていない。現在のプランの中にその人らしい生活の場面やホーム内の援助内容は概ね盛り込まれているが、「地域で暮らす」という視点の内容までは盛り込まれていない方もあり、実際に行っているケアをすべては記入までには至っていない。	○	「地域で暮らす」という視点での地域との関わりでの、日々行っている支援をプランに盛り込む事で、その内容も含め家族等の協力を得ながら、より、「地域で暮らす」という視点の内容のプランに仕上げて行く事に期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては毎月の会議の中で全利用者書に対し検討は行っており、状態が変わらない場合には長期で6ヶ月、短期で3ヶ月の定期的な見直しを行っている。また、状態変化が生じた場合や利用者・家族に意見を頂いた場合には、その都度話し合いを行い見直しを行っている。必用に応じ、医師や栄養士からの助言も頂きながら、計画の作成を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望で外泊をされる時の準備や自宅までの送迎を行った事もある。また、電気治療を利用されている利用者の通院介助やその他の病院への介助、理・美容の希望があれば、近くの理・美容への介助、墓参りや買い物と相談があれば出来る限り柔軟に対応を行っている。また、温泉に入りたいという希望もあり、定期的に温泉に行く機会も設けている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者・家族の希望する医療機関で継続しており、ホームの協力医療機関へ変更の希望があれば、移行の支援を行っている。家族が自ら通院介助の希望がない限り、基本的には職員が通院介助を行っており、それぞれの医師との関係づくりも行っている。また、緊急時には協力医療機関の医師に診察をして頂く事もできる状態にある。受診についての報告は、変化があった時にはその都度電話や家族来所時に報告、変化がなければ月末の自宅訪問時に報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方についての話は特に早い時期には行っておらず、必要性が生じた時に話を行うようにしている。終末ケアについては行っていく予定だが、現在ホームに看護師がいない為対応の限界もあり、今後はその部分も含め話し合いの必要があると感じている。	○	早期での家族・利用者の終末期での意向を把握し、ホームとしてはどこまで対応出来るのかを関係機関も含め意思統一を図り、状態に合わせて繰り返しの確認を行いながら、全員で終末ケアに向けての取り組みに期待していきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーについては職員全員が常に配慮を行い、排泄時の誘導等も小声で行ったり、呼び名も一部利用者が望む呼び名で声かけする方はいるが、基本的には苗字で呼び、目上の方に対する尊敬の念を持って接している。利用者の中に自分でトイレに行きズボンを上げずに出て来てしまう方もおられ、長めのエプロンをはめて頂く事で、すぐには周りの利用者にわからないようにし、職員がさりげなくズボンを上げる等の対応を行っている。個人情報の保護についてもマニュアルを作成し、勉強会を行いながら、外部に情報を漏らさないよう徹底を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な1日の流れはあるが、食事時間等体調が悪かったり、朝起きれない等の場合には無理強いせず様子を見ている。また、普段行っている掃除も断られる事もあるが、本人の体調等を気遣い休んで頂いている。1人で散歩に出ようとされる方には職員がさりげなく同行したり、買い物希望の方にも一緒に出かける等本人の希望に配慮しながら、対応を行っている。フロア内にソファや畳もあり、利用者が思い思いの場所で自分の作業やリハビリを行い、ゆったりと過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で取れた野菜をもとに献立と一緒に考えて頂いたり、調理の下ごしらえや味見、盛り付け、食器の配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きと、利用者の個々の能力に応じて職員と一緒に食事の準備や後片付けを頂いている。献立も旬の食材を取り入れた物や季節の献立、郷土食を取り入れ、職員もテーブルにつき一緒に食事を行っている。また、時には外食にいたり、弁当を頼んだり、家族会にあわせハーフベキューを行った事もあり、楽しく食事が出来るよう工夫を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基本に全利用者に対し声かけを行っているが、体調や本人の強い拒否がある場合は無理強いせず、希望に応じている。入居当初に同姓の職員を希望される利用者もあり、対応したが現在は希望までではない。入浴時間や湯温も体調に無理のない範囲で希望に応じ、危険がない限り1人でゆっくり入浴して頂く事もある。また、季節の柚子湯や菖蒲湯も採り入れ楽しく入浴できるよう取り組みを行っている。年2回は、温泉に行く機会も設けている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除の時間にはそれぞれの利用者が出来る範囲での掃除道具を持ち、職員と一緒に掃除を行っていた。また、料理や洗濯物たたみ、畑の作業、創作活動、ビニール袋たたみ等それぞれの能力に応じた役割があり、思い思いの作業を行っている。ドライブや買い物希望される方は職員と日々の買出しに出かけたり、散歩や日光浴を楽しまれる方も職員が付き添い出来る限り希望に応じている。職員のマッサージを好まれる利用者にも対応しており、各利用者が楽しく生活できるような役割づくりや支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の食材の買出しや散歩、希望に応じてドライブ等積極的に外出の機会を設けている。また、外に出ようと落ち着かない利用者に対しては、その時の状況に応じて職員と一緒に出かけ、散歩やドライブを行った後落ち着いた状態で戻ってきている。温泉に行きたいという希望もあり、年2回計画を立て職員の人数を調整して、温泉へ出かけている。	○	利用者の入居前からの習慣とされていた場所に継続して出かけている方は、現在特にない。利用者の中に地元の町に行きたいと希望されている方がいるが、近隣の方ではなく、なかなか希望を叶えるまでに至っていない。今後希望を叶える為に必要な条件等を洗い出し、出来る限り希望に添えるような対応策を職員全員で話し合い、利用者の願いを可能な限り叶えて頂けることに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はリビングに面しており、リビングの思い思いの居場所で過ごす利用者が多い為、職員がいつでも見れる状態にある。裏口や居室の窓も大きく、出ようとせば出れる状態にあるが、居室で過ごす利用者に対してはプライバシーに配慮しながら時々声掛けを行い所在確認を行っている。以前に1～2度程裏口より出て行かれた利用者もいたが、職員がお互いに作業する場所を確認し合っている為すぐに発見でき対応が行えている。普段も玄関まで行かれる利用者に対しては、一緒に買い物や散歩に出掛けたりと、出来る限り対応を行っており、夜間以外は施錠を行っていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合防災設備会社や地元の消防団、消防署の協力を得て年2回、避難訓練や消化訓練等を行っている。夜間想定での訓練も二度程行っており、近くに住む職員が駆けつける等のマニュアルも作成されている。地域の消防団との協力体制もできており、夜間の災害時での協力も得られる状態にある。地域住人への協力体制までは、現在まだ整っていない。また、災害時の備蓄に関してはマニュアル作成委員により品物リストまでは作成されているが、購入までには至っていない。	○	夜間の災害時は特に人手が少ない状態にあり1人でも多くの協力者を必用とする為、地域の消防団だけではなく周りの住人にも協力頂けるような関係作りに期待したい。また、備蓄に向けての品物リストは作成されているが購入までには至っていない為、早い時期での準備を職員全員で検討し、災害に備えて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の通所サービスの栄養士により栄養アセスメントが行われており、食事量や飲水量も記録を行っている。また、カレー等の盛り付けに関してもその都度希望を聞いており、別盛り等の対応をおこなっている。食事が進まない利用者に対して、ご飯に味付け海苔をかけたり、お茶漬けにする等の工夫も行っている。また、野菜ジュースやバナナジュース等好みに合わせて飲んで頂いている。摂取量が少ない利用者に対しては、医師にも相談を行っており、栄養ドリンクでの対応も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事をするテーブル以外に、畳の部屋やソファもあり、それぞれの所定の場所がいつの間にか決まっていて、思い思いに作業を行っている。季節の花が飾られ、壁には利用者が作った季節にあった飾りつけや、行事等での写真が貼ってあり、フローアーには移動の妨げにならないよう余計なものを置かないようにしている。フローアーが台所と一体になっている為、食事前にはその香りが当たり一面に立ち込めており、家庭的な雰囲気を感じられる。テーブルクロス内には利用者が作成した花の飾りを、利用者と相談しながら入れている。日差しの調節は、カーテンや夏場はすだれを使用し、適宜に調節を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた家具やテレビ、冷蔵庫、仏壇、小物入れ、家族の写真等それぞれの利用者の落ち着ける空間作りを、家族と相談しながら協力を頂き、つくりあげている。また、基本的には居室はフローリングだが、畳での生活を好む利用者には、畳を敷き対応している。その他、写経を好む利用者にはその写しも飾られている。		